



TITLE:

シリウス

AUTHOR(S):

伊東, 祐大

CITATION:

伊東, 祐大. シリウス. 天界 1938, 18(202): 122-122

ISSUE DATE:

1938-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167597>

RIGHT:

15糧にも明瞭に見られた。即ち、シソニウス湖へ延びたエシオプス I, II 運河及アルシオニウス湖に達するパクトルス運河の2つである。

渡邊氏はこれ以外に數本の細いカナルを見られたが略す。(未完)

追記 火星圖は次回に記載の豫定。

シ リ ウ ス

伊 東 祐 大

太陽の遠くなつたのが君だといふ
太陽をながくみつめてゐると
鏡のやうに綠色に光りだすが
その時の色が少し君にも似てゐるが
それにしても遠くへいつたものだ
全天の恒星中
君が一番大きいから
こんな比較もするのだが

いつもオリオンの斜下で
大きく大きく澄んだ色
紺青色が桔梗色
露のかかつた草の葉の
色に大きく光る君
ともすればおぼこ娘のウインクを
おもはせるやうなまたたきもする
空の最大の巡禮者
僕は君を目八分に眺めながら
「君よ、わが永遠派の尤なるもの」
とつぶやきながら暗闇を歩くのだよ